

# (仮称) 堺ミュージアム 基本構想 (案)

令和 8 年 月 日

堺市文化観光局

(仮称) 堺ミュージアム検討会議

# (仮称) 堺ミュージアム基本構想 (案) 【基本構想の策定にあたって、基本理念】

## 1 基本構想の策定にあたって

### 構想策定の背景と目的

- ・堺市博物館が昭和55（1980）年に開館してから、40年以上が経過。その間、美術作品の新収蔵、百舌鳥古墳群の世界遺産登録等、市内の歴史・文化をとりまく状況が大きく変わっている。
- ・堺市博物館の設備も老朽化しており、収蔵品を適切に保管する設備に限界がある。また、近年めざましく発達したデジタル技術の導入も難しい状況である。
- ・「先人から受け継いだ堺の類いまれな歴史・文化を発信し、未来へ継承すること、ミュシャ作品をはじめとした本市のコレクションや文化財を集約し、保管・展示すること」を設置目的として想定し、令和2（2020）年度より（仮称）堺ミュージアムの整備の検討を始め、令和6（2024）年1月には以下のコンセプトを検討の前提にすることとした。

（仮称）堺ミュージアムのコンセプト

歴史・文化の継承・発信・連携の拠点となる

堺ミュージアム

## 2 基本理念

### （1）「ここに来れば堺が分かる」という知の集積の場であること。

世界遺産「百舌鳥古墳群」や海外との貿易により繁栄した中世都市堺等、日本史上に存在感を示してきた堺が誇る文化遺産や歴史・美術資料に関する調査、研究、展示の核とする。

### （2）堺の歴史文化遺産のブランド力を発信する場であること。

堺の歴史・美術資料がもつ魅力の相乗効果により生み出される新たな価値を国内外に発信する。

幅広い層の興味、関心を惹きつけることで堺来訪の主目的たる施設とする。

### （3）歴史・文化を介してヒトをつなぐ場であること。

市民と連携・協働する地域コミュニティのハブとしての役割を担い、創造的で活力ある地域社会の構築に向けて取り組む。

社会教育・学校教育の拠点として、すべての人が学び、交流・対話の主役となる文化の広場をめざす。

### （4）モノにもヒトにも安全安心な場であること。

先人たちから受け継いできた資料を永続的に保管し、未来へ継承していく文化遺産の庫とする。すべての人に対して安全でやさしい空間を提供する。

### （5）社会課題と向き合う場であること。

グローバル化、多様化する現代社会において、すべての人々に開かれ、社会課題の解決に取り組む場とする。環境問題、社会的な責任、ガバナンスの観点から持続可能な博物館経営を実現する。

## （仮称）堺ミュージアム基本構想（案）【活動方針、市政における位置付け】

### 3 活動方針

- (1) 堺、南大阪における歴史・文化及びアルフォンス・ミュシャ作品等の収集を行い、保管、展示、利活用の基礎となる調査研究を推進する。
- (2) 資料のコンテンツ情報や研究成果を国内外に発信し、全世界と新知見の情報共有を行うことで、活発な資料活用を図る。
- (3) 本市の歴史資料及びミュシャ・コレクションをはじめとする美術資料を一元管理することで、従来にない多彩な展示や体験活動を実現する。
- (4) (仮称) 堺ミュージアムを起点とし、デジタル技術も活用して、次なる学びを深め、また市内の周遊や観光を楽しめる仕掛けをつくる。
- (5) 堺の歴史・文化やその背景について多面的に学べ、探究心を育むプログラムを構築する。
- (6) 堺の歴史・文化を活用した地域との協働を進めるプログラムをつくり、地域の活性化に貢献できる体制や施設を整備する。
- (7) 学校教育のカリキュラムに応じた博物館教育プログラムを拡充する。
- (8) 堺市内の歴史文化関連施設の中核館として、関連施設をつなぎ、価値を共に創り出す。
- (9) 収集方針に則り収集した資料を適切な環境で保管し、必要な修復を行いつつ未来へ伝える。
- (10) 多様な人々が安全に過ごせる環境を整備する。
- (11) 社会状況・経済状況の変化に対応した博物館運営を展開する。
- (12) すべての人が学びの機会を享受できるユニバーサルミュージアムを整備し、多様な背景の人々が訪れやすい博物館運営をめざす。
- (13) アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）と連携し、堺・日本の無形文化遺産等の理解促進を図る。

### 4 市政における位置付け

- ◆堺市基本計画2025（令和2年度策定）
  - ・IV 都市像 2 重点戦略 1 堺の特色ある歴史文化～Legacy～

堺の類稀な歴史文化資源に磨きをかけ、後世にその価値を引き継ぎ、歴史や文化芸術、国際交流を通じて、都市のブランド力の向上を図り、新たな誘客や交流を生み出す。
  - ・堺の特色ある歴史文化～Legacy～取組の方向性
    - 1- (1) -③ 本市が誇る歴史・文化の価値や魅力を学び、体感できる（仮称）堺ミュージアムの整備

百舌鳥古墳群をはじめ、堺が誇る多様な歴史・文化を学び、体感できる環境を整え、大仙公園エリアの魅力をさらに高めるため、博物館や堺アルフォンス・ミュシャ館等の様々な機能を集約した「（仮称）堺ミュージアム」の整備に向けて取り組む。

# (仮称) 堺ミュージアム基本構想 (案) 【堺市の概要、社会環境の変化、堺市博物館・堺市立文化館の沿革】

## 5 堺市の概要

### ◆市の概要

面積149.83km<sup>2</sup> 人口803,509人 世帯数377,233世帯

(令和7(2025)年11月1日現在、推計人口による)

### ◆観光

令和元(2019)年に世界遺産に登録された百舌鳥古墳群、国際貿易の拠点として発展した中世の自治都市「堺」を起源とする環濠エリア、さらに千利休によって大成された茶の湯の文化や伝統産業等、多くの観光資源が存在している。

### ◆歴史・文化

堺は古代より海に開かれ、中世には環濠都市を形成し、近代以降も港湾都市として海を通じて広く世界へつながる流通往来の拠点として発展してきた。また陸路においても複数の街道の起点や結節点として古くから人・物・情報が集まるなど、国内外との交流の拠点としても発展した。

## 6 社会環境の変化

### ◆政令指定都市への移行(美原町の合併)

〈文化財行政の一部事務・権限の委譲、美原区域の歴史・文化の展示〉

### ◆現在及び将来的な人口の減少と高齢化の進展

〈人口減少に伴うオペレーション等の効率化〉

### ◆百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録

〈古墳群の後世への継承と価値や魅力の国内外への発信〉

### ◆著しいデジタル技術の発展 等

〈三次元データ等を含めた収蔵品のデータベース化と展示への活用〉

→堺ミュージアムはこれらの変化に対応した施設とする必要がある。

## 7 堺市博物館・堺市立文化館の沿革

### ◆堺市博物館の概要

所在地: 堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁 大仙公園内

開館: 昭和55(1980)年10月23日

- 昭和55(1980)年、市政90周年記念事業として博物館が建設された。
- 考古、歴史、美術、民俗の各分野の学芸員を配置し、資料収集・保管、調査研究、展示・普及事業等を実施している。
- 資料収集においては、大阪南部の中核的博物館として、収集基本方針に沿って、市内外からの寄贈・寄託の受入れや資料購入を行う。資料保管のため、館内環境の管理も継続的に実施している。
- 所蔵資料や市内所在の文化財を中心に調査研究を進め、その成果は、毎年5回程度の企画展・特別展の開催及び図録や年度末に刊行する『堺市博物館研究報告』(平成22(2010)年度まで『堺市博物館報』)で発信している。

### ◆堺市立文化館の概要

所在地: 堺市堺区田出井町1丁2番200号 ベルマージュ堺式番館

開館: 平成12(2000)年4月7日

- 株式会社ドイの創業者である故土居君雄氏が収集したアルフォンス・ミュシャのコレクション(ミュシャ作品300点、ミュシャ関連作家作品18点)を、平成6(1994)年6月に妻の満里恵氏から寄贈を受ける。その後、購入等によりミュシャ関連作家作品を含め約500点を所蔵している。
- 平成12(2000)年4月7日、堺市立文化館内に堺アルフォンス・ミュシャ館を開設した。
- フランスやアメリカ、チェコで活躍したミュシャの初期から晩年にいたる多彩な創作活動を様々な角度から紹介するために、年3回テーマにあわせた展覧会を開催している。

## (仮称) 堺ミュージアム基本構想 (案) 【堺市の文化施設を取り巻く課題】

### 8 堺市の文化施設を取り巻く課題

#### ◆堺市博物館

課題		検討の方向性
資料収集保存に関する課題	<p>収蔵庫スペースが不足しており、近い将来新たな収蔵品の受入れが困難になることが想定される。大規模災害時の文化財の一時的な保管場所を有していない。</p> <p>文化財に適切な温湿度管理が困難で、「文化財IPM」の考え方沿った保存環境ではない。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>将来の収蔵品の増加、災害時の文化財避難等を踏まえた収蔵スペースを確保する。</li><li>保護した収蔵品を適切に管理できる設備を整備する。</li><li>増え続ける収蔵品に対する適切な収集方針の見直しを行う。</li></ul>
展示における課題	<p>独立した企画展スペースがないため、来館者動線が煩雑で、展示作業中の作品管理の安全性を確保することが難しい。</p> <p>作品の安全性を確保しつつその魅力を引き出す展示が困難である。動画や触察模型といった、来館者が楽しみながら学ぶコンテンツが不足している。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>作品を安全に展示し、かつ、その魅力を引き出すことのできる設備やスペース、来館者が観覧しやすく楽しむことのできる設備を整備する。</li><li>独立した企画展スペースを設置する。来館者に対する分かりやすい動線と作品の安全性を確保する。</li></ul>
教育普及における課題	体験プログラム等を実施する設備や体制が整っておらず、博物館資料を核として学びを深め、現地に赴くといった、効果的で継続的な学びを提供できていない。	博物館での学びが館内でとどまらず、現地訪問など継続的な学びに結びつく取組を検討する。
協働における課題	他機関と連携した堺の歴史・文化の魅力発信や周遊の拠点としての機能が不十分であり、博物館で活動する市民のためのスペースが不足している。	市内周遊の拠点として情報発信ができる機能やコンテンツ等を整備し、市民等が活動しやすい設備を検討する。
施設全般における課題	大規模自然災害発生時に収蔵品及び来館者の安全が確保できない。団体利用や来館者動線に配慮した建物構造ではないため、来館や観覧等に困難を伴う場合がある。	大規模災害時でも安全を確保できる設備とし、来館しやすいアクセスや観覧に適した動線・スペースを検討する。

## (仮称) 堺ミュージアム基本構想 (案) 【堺市の文化施設を取り巻く課題】

### 8 堺市の文化施設を取り巻く課題

#### ◆堺 アルフォンス・ミュシャ館及びその他の課題

課題		検討の方向性	
堺 アルフォンス・ミュシャ館	現施設が美術館機能を想定した施設ではなく、天井の低さや展示室が2フロアに分断されているなど構造上の問題を有している。		<ul style="list-style-type: none"><li>分散する収蔵資料の集約について、ヒストリックカーや美術作品、埋蔵文化財・文化財資料等の活用内容に応じて、収蔵方法の検討を行う。</li><li>文化財の公開・活用の取組に際しては、(仮称) 堺ミュージアムとの連携を積極的に図る。</li></ul>
	ミュシャ・コレクションを館内と市外の美術品倉庫に分割して収蔵している。館内は作品の管理上、非常に重要な温湿度管理機能を建物自体が有していないため、美術品の展示にとって最適な環境であるとは言い難い。		
	JR堺市駅に直結する立地は利便性が高い。一方で堺観光戦略が定める二つの重点エリア（大仙公園エリア、環濠エリア）から外れている。		
ヒストリックカー	常設展示を行う場所がないため、民間事業者への貸出や、イベントごとにスポット展示を実施するにとどまっており、恒常的な活用ができていない。		
所蔵美術作品	本市にゆかりのある作家を中心に約800点の美術作品を所蔵しているが、常設展示スペースを有しておらず有効な活用ができていない。		
収蔵庫の分散	本市が所蔵する多くの美術品は、所有する収蔵スペースではすべてを収蔵できず、寄託契約により大阪市内の美術品倉庫に保管している。		
文化財の調査研究体制	調査・研究に関わる問い合わせ等に対して一元的な窓口となっておらず、効率的な体制ではない。		

## (仮称) 堺ミュージアム基本構想（案）【想定する取組】

### 9 想定する取組

#### 博物館活動を活性化させる調査研究

- ①学際的共同研究の実施および学芸員個々の専門性の強化
- ②国際的な研究ネットワークの構築
- ③地域や市民と連携した調査研究
- ④最新の技術を駆使した調査研究

##### 計画的な収集

- ①収集方針に基づく収集
- ②デジタルコレクションの収集
- ③参加型手法※による収集

※参加型手法…市民や当事者等が博物館と協働して資料の発見、記録、意味づけの過程に関与する手法。参加型手法に基づき、資料収集の方向性を博物館へ提案する。

##### 永続的な保管・保全

- ①環境に配慮した持続可能な保管
- ②資料の特性に応じた適切な保全
- ③リスクマネジメントに基づく安全な保管
- ④防災対策を踏まえた保管
- ⑤デジタルアーカイブ等による保管
- ⑤文化財レスキューへの対応

##### 多様な視点を取り入れた展示

- ①環境に配慮した展示
- ②多様な人々に対応するユニバーサル展示
- ③感情や感覚に訴求する展示
- ④対話型、双方向（インタラクティブ）な展示
- ⑤デジタル展示とオンライン体験の提供

##### インクルーシブ※な教育・普及・連携

- ①共同研究、体験活動における地域コミュニティとの連携
  - ②堺の特性を活かした展示やワークショップ等の提供
  - ③多様な来館者に対応した様々なサービスの提供
  - ④歴史文化関連施設との事業連携や相互誘客の推進
  - ⑤デジタル技術を活用したバーチャル展示空間の構築
  - ⑥無形文化遺産に関する理解を深める取組の実施
- ※インクルーシブ…包摂性。誰も排除せず、すべての人が参加できるようにする考え方や仕組み。

##### 積極的な資料の活用

- ①歴史資料と美術作品のコラボレーション展示の企画
- ②歴史文化資源の魅力創出
- ③大仙公園エリアや市内の歴史文化遺産の周遊体験を創出
- ④（仮称）堺ミュージアムならではの体験プログラムの提供
- ⑤グッズ作製など収蔵品を活用した収益化

##### 効果的な情報発信

- ①SNS等を利用した情報発信の強化
- ②データベース、デジタルアーカイブの公開
- ③デジタル技術を活用したオンライン講演会やバーチャルツアー等の実施

##### 安全安心な環境整備

- ①バリアフリーな施設整備
  - ②センサリーフレンドリーへ配慮した環境の構築
  - ③発災時のリスクマネジメント体制の構築
- ※センサリーフレンドリー…音・光・匂いなどの刺激を減らし、感覚に敏感な人が過ごしやすい環境やサービスのこと。

##### 向き合うべき現代的課題

- ①インクルーシブな展示や活動の展開
- ②ジェンダーに配慮した展示の工夫と運営
- ③世代間交流を促すプログラムの提供
- ④多様な文化的背景に配慮したわかりやすい展示
- ⑤適切なマネジメントに向けた博物館評価制度の導入

## (仮称) 埼ミュージアム基本構想（案）【埼ミュージアムの機能を実現する施設・設備】

### 10 埼ミュージアムの機能を実現する施設・設備

#### ◆調査研究機能

- ・国内外に所在する埼ゆかりの文化財について調査研究できる施設・設備

#### ◆収集・保管・保全機能

- ・素材の違いや脆弱さの程度等、多様な状態の資料を適切な環境で保存し、次世代へと引き継ぐための施設・設備
- ・大規模自然災害時に、被災資料の応急処置ができる施設・設備

#### ◆展示機能

- ・企画・特別展示室の整備
- ・ミュシャ・コレクションを活用した常設展示室の整備

#### ◆教育・普及・連携機能

- ・博物館での体験を通して埼のより広い歴史に親しみを持ち、主体的に学ぶ楽しさを感じできる施設・設備
- ・生涯学習の場として活用できる施設・設備

#### ◆市民参画・交流機能

- ・人々が集い、体験等を通じて交流することができる施設・設備

#### ◆管理・その他機能

- ・ミュージアムの管理運営に必要な施設・設備

#### ◆観光・集客エリア

- ・ミュージアムショップ、ミュージアムカフェ（レストラン）等の整備

#### ◆ボランティア利用エリア

- ・ミュージアムでのボランティア活動が行える諸室の整備

#### ◆IRCIエリア

- ・ユネスコの賛助機関であるIRCIが滞りなく活動できる諸室の整備

埼ミュージアムでは、未来へ継承すべき資料に責任を持ち、安全に管理するため、

登録博物館、公開承認施設をめざす

登録博物館とは、博物館法に基づき、資料、職員、施設、事業内容などに関する審査を経て登録された博物館をさす。また、文化庁長官に公開承認施設として承認されることにより、国宝・重要文化財等を借用・展示する手続が簡素化する。また、文化財所有者からの信頼を得やすく、文化財を安全な条件で公開している証となる。